

本件は、大阪市政記者クラブ、大阪教育記者会、
大阪科学・大学記者クラブに同時資料提供しています。

平成 28 年 8 月 5 日
株式会社海遊館 広報チーム
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>
(担当：村上、西村、田中)



地元の中高生が体験学習

全長約5m、メガマウスザメの学術調査を行います

大阪市港区の海遊館では、平成 28 年 8 月 11 日（木・祝）に、40 年前にその存在が確認された大型のサメ、メガマウスザメ（全長約 5m、メス）の学術調査を行ないます。調査はこの分野の第一人者である仲谷一宏^{なかやかずひろ}博士（北海道大学名誉教授）の協力を得て海遊館館長ならびに飼育員が実施し、海洋生物や海洋環境に興味を持つ大阪市港区の中高生計 30 名^{いちおか}（市岡高等学校 13 名、^{ちっこう}築港中学校 17 名）が体験学習として参加します。



メガマウスザメは、名前の通り非常に大きな口が特徴の大型サメで、生殖方法を含む生態など多くのことが解っていません。今回調査するメガマウスザメは、平成 28 年 4 月 13 日に三重県尾鷲市^{おわさ}の定置網に迷入したもので、極めて貴重な標本であることから海遊館が譲り受け冷凍保存していました。

海遊館では、将来を担う学生たちに、この貴重なメガマウスザメを間近に見て、触れて、匂いを嗅ぎ、専門家と一緒に、外部調査や解剖調査に取り組むことで、海の環境と生命を感じとり、考えてもらう機会を提供します。そして、学生たちが今回体験した内容を取りまとめ、北海道大学が主催する「海の宝アカデミックコンテスト 2016」に応募する予定です。

（1）メガマウスザメの学術調査と体験学習の実施要領

日 時：平成 28 年 8 月 11 日（木・祝）9：00～17：00 （事前レクチャー、学術解剖と実習、まとめ）

場 所：海遊館（南側駐車場）

実 習：大阪府立市岡高等学校（13 名）、大阪市立築港中学校（17 名）※ともに大阪市港区に所在

標 本：メガマウスザメ（全長約 5m、メス、平成 28 年 4 月 13 日に三重県尾鷲市の定置網に迷入）

スケジュール：

- 9：00 海遊館に学生たちが集合
- 9：15 学術調査や当日のスケジュールを説明
- 9：30 仲谷博士によるメガマウスザメに関するレクチャー
- 10：00 学術調査と実習
- 12：00 昼食
- 13：00 学術調査と実習
- 15：00 まとめ
- 17：00 終了

(2) メガマウスザメについて

和名：メガマウスザメ 学名：*Megachasma pelagios* 英名：Megamouth shark

メガマウスザメは、その名のとおりに非常に大きな口や様々な珍しい特徴を持つサメの仲間。1976年にハワイ沖で偶然捕獲されたが、その発見はシーラカンスと並ぶ大発見として大きな話題になった。

漁業による混獲や死亡個体の漂着などで発見され現在、世界で100例ほどの報告例があるが、その生態はほとんど解明されておらず、学術的に貴重な種である。

全世界の熱帯域から温帯域の沿岸ならびに外洋に棲み、沿岸では昼間は水深100～200mほどの大陸棚で過ごし、夜間に餌を求めて水深10～20mまで浮上してくると考えられている。メガマウスザメはジンベエザメやウバザメと同様にプランクトンを食べるが、ジンベエザメやウバザメの摂餌法と違い、ヒゲクジラ類に似た摂餌方式をとると考えられている。本種の生殖に関しては何一つわかっていないが、今回調査する個体は全長が約5mで性的に成熟している可能性もあり、新たな発見も期待される。



日本沿岸で最初に確認されたのは1989年で、現在までに19例の報告があるが、研究資料として水族館や大学に情報が届けられる事例は限られている。ICUN（国際自然保護連合）の「絶滅の恐れのある生物種のレッドリスト」では、軽度の懸念がある種（LD）と評価されており、本種の生息域や生態に関する調査の重要性が増している。

※The IUCN Red List of Threatened Species <http://www.iucnredlist.org/details/39338/0>

(3) 「海の宝アカデミックコンテスト 2016」について

全国の中学生・高校生を対象にしたプレゼンテーションコンテスト。「海」をテーマに、科学、芸術、文化、食、環境など、8枚組の電子紙芝居作品を制作して表現する。北海道大学が主催し日本財団の「海と日本プロジェクト」の一環として実施している。

<http://www.umicon.jp/index.html>